



ロータリー：
変化をもたらす



Jan Hiseby,

イアン H.S. ライズリー
2017-18年度国際ロータリー会長

No.36

Takasago Rotary Club

週報

高砂

クラブ会長方針

- ① まさかと思える変化に挑戦！
- ② ますます健康で奉仕を实践！
- ③ まじめに親睦を！

例会記録 (2018. 4. 13 (金)) 通算3,165回

◆開会・点鐘

◆ロータリーソング「我等の生業」

◆「四つのテスト」唱和

◆ゲスト紹介

ポリオプラス小委員会 喜多 美雄 委員長
英 和夫 委員

◆歓迎歌「松の緑」

◆プログラム予定

4月18日 (水)	4月27日 (金)	5月4日 (金)	5月11日 (金)
移動合同例会 高砂青松RCとの 献血例会 (高砂市文化会館駐車場)	卓話 「フェイスブック神戸・播磨 出会い百景と私」 丸山 恵右 会員	休会 (祝日のため)	卓話「子育てについて」 坂牛 裕 会員

◆出席報告

本日4月13日 会員数43名 出席者24名 出席率66.67%
前々回3月30日 会員数43名 修正出席者41名 出席率95.35%修正
3月度 平均出席率97.21%

◆MAKE-UP

桂田 重信会員	地区大会	3月 4日 (4月13日)
池本 和正会員	e-CLUB	4月12日 (3月14日・30日)
落合 計夫会員	e-CLUB	4月 5日 (3月23日)
後藤 純次会員	e-CLUB	4月 8日 (4月13日)
本庄 幸保会員	e-CLUB	4月11日 (4月13日)
石垣 政昭会員	e-CLUB	4月12日 (4月18日・27日)
加治屋昭平会員	e-CLUB	4月12日 (4月 6日)
加茂 良祐会員	e-CLUB	4月12日 (4月 6日)
滋野 敦士会員	e-CLUB	4月12日 (3月30日)
竹友 正樹会員	e-CLUB	4月12日 (4月13日)
中尾 良治会員	e-CLUB	4月12日 (4月13日)
西田 秀雄会員	高砂青松RC	4月 7日 (4月 6日)

◆S. A. A. (ニコニコ箱報告)

守光 隆会長……地区ポリオプラス小委員会の喜多委員長、英委員、ようこそ高砂ロータリーへお越し頂きました。本日は卓話よろしくお願ひします。

ポリオ小委員会 喜多美雄委員長・英和夫委員……本日はポリオ小委員会にお呼びいただきまして本当にありがとうございます。委員会の重鎮の英先生に卓話をお願いしていますので宜しくお願ひ致します。いつもポリオ募金にご協力いただきましてありがとうございます。

名嶋 一成会員……出席100%祝(36年)を頂きありがとうございます。

籠谷 啓一会員……喜多様ようこそ。

早退1名

◆幹事報告 (3,165回)

〈国際ロータリー第2680地区より〉

◎「台湾東部地震被害支援へのご協力御礼」

義援金総額 2,488,141円

◎「地区ガバナーノミニエ・デジグネートの宣言」

高瀬英夫会員 (西協RC)



谷川こずえ幹事

〈例会変更のお知らせ〉

◎高砂青松ロータリークラブより

5月16日(水) → 5月13日(日) 創立40周年記念事業

講演会 「金村義明トークショー」 13:00～ 受付

高砂市文化会館

式典、祝宴 ウエディングパレス鹿島殿

◎明石ロータリークラブより

5月 2日(水) → 休 会

6月27日(水) → 休 会

◆会長の時間

決闘の日

慶長17（1612）年4月13日、山口県下関市の沖にある巖流島（正式名称 船島）で宮本武蔵と佐々木小次郎が決闘をした日です。エピソードとして、武蔵は相当遅刻したようで、怒った小次郎が「遅いぞ武蔵！」と言いながら、刀の鞘を投げ捨てたところ、武蔵が「小次郎破れたり！戦いに勝った時に刀を納める鞘がなければどうする？」と言ったという話が有名です。その後の決闘では、舟の櫂を削って作った長い木刀で武蔵が一瞬早く小次郎の胸を突き、気絶したところにトドメをさし、武蔵が



守光 隆会長

勝利したことになっています。しかし、これは後に書かれた吉川栄治作「宮本武蔵」のクライマックスで描かれたために、広く知られるようになりましたが、事実は少し違うようです。

まず、武蔵は「遅刻しなかった」。この話は先ほどの吉川栄治の本の中に出てくる話ですが、それ以前の書物には書かれていないことなので、物語を盛り上げる意味で書かれたものではないか、と言われていました。

次に、小次郎にトドメをさしたのは、武蔵の弟子たちだった、らしいということです。この決闘は1対1で行う約束だったので、弟子を連れていくことは禁じられていました。ところが、武蔵は弟子たちを草むらに潜ませていた、というのです。

また、決闘時の年齢は、武蔵20歳前後（18から27歳）ですが、小次郎は、資料がほとんど残っていないため想像ですが、武蔵より40歳年上とみられているため、60歳前後だったと考えられます。当時の状況を考えると相当よぼよぼだったのではないかと想像されます。

そもそも、本来は船島という名前の島ですが、小次郎が自分の剣法を「巖流」と名乗っていたために、島の名前も巖流島と呼ばれるようになったことを考えると、ちょっと小次郎寄りの話なのかなと思ったりもします。

しかし、武蔵は決闘に勝ったことは事実で、兵法家として優れていたことに変わりはありません。

◆本日のプログラム

卓話「ポリオプラス小委員会」

英 和夫 様



会 長 守光 隆 幹 事 谷川こずえ
例会日時 毎週金曜日12時30分より
高砂ロータリークラブのホームページのURL

雑誌会報委員長 西田 秀雄
例会場 高砂商工会議所 2階会議室
http://www.winwin.ne.jp/~takasago_rc/